

2012/02/06

士幌町農業協同組合代表理事長
高橋 正道 様

食のコミュニケーション円卓会議
代表 市川まりこ

「放射線照射ジャガイモ製造と販売を止めないで下さい」

私たちは、食の問題についてより良いコミュニケーションを育みたい！との思いから、主婦、事業者、研究者、教育者、マスメディアや行政関係者など様々な立場のメンバーが、互いに学びあうという精神で集い、学習会や見学会などの活動を行っている消費者団体「食のコミュニケーション円卓会議」です。

2010年4月23日には、JA士幌町のじゃがいも芽止め照射施設を見学し、品質の良い北海道産のジャガイモを端境期にも美味しいままで消費者に届けたいと、誇りをもって「芽どめじゃが」を出荷されている現場をしっかりと見てきました。今まで何回か「芽どめじゃが」を実際に購入し食べて、美味しい・便利と感じ、自分の家の近くの店でも買えることを願っています。

先般、「照射食品反対連絡会」という団体のホームページで、放射線照射ジャガイモ製造と販売の停止申し入れがあったことを知りました。その申し入れの下記について、消費者の立場から意見と要望を述べたいと思います。

・消費者が要望する安心・安全のために、士幌農協が行っているジャガイモへの放射線照射と販売をやめてください。

【食のコミュニケーション円卓会議の意見と要望】

照射ジャガイモは、厚生労働省（旧厚生省）が許可し、その後、食品安全委員会も問題は無いと認め、高品質の「芽どめじゃが」として端境期に合法的に流通しているものです。安全性に問題がないにもかかわらず、一部の人たちの要求に従って、照射ジャガイモの販売を一方的に中止すると、これまで「端境期に室温で芽が出ないのは助かる」「美味しい」と、放射線照射ジャガイモの消費者メリットを享受し、感謝の声を寄せていた消費者が、選択の機会を失うこととなります。さらに、多くの消費者に対して根拠のない不安を抱かせ、誤解を助長してしまうことにもなります。

科学を理解しない、あるいは、意図的に無視することにより不安を感じる一部の消費者団体の、「自分の安心のために少しでも不安なものは排除」という主張を受け入れてしまうと、日常食べているどの食品にも、もともと何かしらごく微量の危険な物質が入っているので、一部の団体が「販売しないで」と言う度にどんどん排除していくと、他のたくさんの消費者が大変困ることになります。

科学的事実と乖離した過大な不安を抱くことにより、結果として不利益を被るのは、他ならぬ消費者自身です。不必要な不安や誤解を解消することこそが真の消費者利益に応える事業者としての社会的責任であることを考慮された上で、安全性を担保する科学的な事実に基づく、適切な情報提供をしつつ、消費者の利益にかなう放射線照射ジャガイモ製造と販売を是非とも継続して下さるようお願いいたします。私たちは発信した情報を共有するため、本要望書を提出したこととその内容を当会のホームページに掲載したいと思っております。今後も、食品照射について前向きな情報発信とコミュニケーションを取っていきたくと考えております。

以上